

女子大学卒業者の生活と意識—O女子大学の場合—

第3報 ライフコースの年代的变化と生活意識の特徴

喜多智子* 一棟宏子** 中川洋子** (*大阪城南女短大 **大阪樟蔭女大)

目的：女子大学卒業者のライフコースの年次的変化の実態を把握し、結婚・子育て・家事・介護に関する生活意識のライフコース別特徴について検討した。

方法：1996年6～7月、O女子大学卒業者を対象にアンケート調査を実施した。調査概要は第1報と同様である。今回対象となった380人のライフコースは未婚（就業継続型28%、就業中断型3%）、既婚（子なし就業継続型5%、子有り就業継続型9%、結婚・出産後専業主婦型33%、出産後再就職型14%、就業経験なし型8%）。

結果：①ライフコースは専業主婦と未婚就業型で全体の6割を、そのほか出産後再就職、出産後も就業継続、就業経験なしが各1割前後を占めている。未婚者の有職者は9割弱であるが、既婚者では4割に減る。結婚後も仕事を継続しているのは2割にすぎない。②年代別では、25歳は未婚で職業をもち、30歳は既婚者が7割にふえる。出産・子育て期で専業主婦の比率が最も高い。40歳では専業主婦も多いが、出産後の再就職者は3割にふえる。50歳、60歳では専業主婦と就業経験がない人が多い半面、出産後も仕事継続の比率は若い世代よりも高い。③他調査と比べると、専業主婦や就業未経験の比率が高く、出産後も就業継続者は少ない。④生活意識をみると、子なし就業継続型は結婚・家事より自立を重要視し、逆に就業経験なし型は女性の役割にこだわっている。老後について再就職型は三世同居を望まず、子あり就業継続型と就業経験なし型は子供や家族への期待が大きいなどライフコース（職業継続型と専業主婦型等）によりかなり異なった特徴が認められる。